

ニコラス・マドゥーロ：「アメリカ合衆国の皆様に申し上げます。ここベネズエラには、友好的な国民がいます」

出所：Cubadebate

著者：イグナシオ・ラモネ

2026 年 1 月 1 日 | + |



写真：ベネズエラ大統領報道局

ベネズエラのニコラス・マドゥーロ大統領に、10年連続で「新年のインタビュー」に応じていただきました。このインタビューは、12月31日の夕方、美しい首都に夜が訪れ、2025年が終わろうとしていたカラカスで収録されました。

今回は、マドゥーロ大統領から「移動インタビュー」を提案されました。つまり、大統領自らが運転する専用車の中で、活気あふれる街の通りを走りながら会話を続けるというものです。

後部座席には、大統領夫人であり「最初の戦闘員」であるシリア・フローレスさん、そして若くて優秀な文化・コミュニケーション担当副大統領であるフレディ・ニャネスさんも同乗しました。目に見える護衛も、武装した人員もいませんでした。

今回のマドゥーロ大統領の発言は、きわめて特別な意味を持っています。なぜなら、5か月以上にわたり、同国は沿岸沖に展開する強大なアメリカ海軍による圧力にさらされているからです。

また、アメリカ合衆国大統領が、ベネズエラの主権に対する脅しを繰り返してきたからでもあります。さらに、この緊張状態は、ニコラス・マドゥーロ大統領を国際情勢のまさに中心に位置づけるものとなっているのです。

イグナシオ・ラモネ：まず、大統領、10 年連続でこの「新年のインタビュー」をお受けいただき、誠にありがとうございます。特に現在の状況で、大統領がご多忙であることを承知しております... まず、経済に関する話題から始めさせてください。国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会（CEPAL）が発表した報告書によると、2025 年にラテンアメリカで最大の経済成長を見込む国は、ベネズエラであり、その成長率は、9%と推定されています。私が質問したいのは、封鎖され、一方的かつ違法な強制措置にさらされ、現在米国から軍事的な脅威にさらされている国が、どうしてこのような「経済的奇跡」を達成できるのか、ということなのです。

マドゥーロ大統領：それは良い質問ですね。まず、車に同乗の皆さんにご挨拶したいと思います。私の妻であり特別招待客のシリア・フローレス、そしてここですべてを見守っている哲学者で詩人のアルフレド・ナサレト・ニャーニェスです。

ベネズエラは、ラテンアメリカおよびカリブ地域において、実体経済の成長率で 2 年連続して首位に立っています。私たちは 2021 年に飛躍を遂げて以来、20 四半期連続で成長を続けているのです。

2022 年 1 月 1 日に掲載されたインタビューで、私が経済計画についてご説明した際（その内容は確認できます）、私たちは、各エンジンが自らの力で動き出すような経済エンジン計画を設計したと申し上げました。これらの経済エンジンは、まさにベネズエラに根ざした、つまり現実に関連したものであり、私たちが適当に述べたものではありませんでした。そして、各エンジンの開発は、その実際の成長能力と、すべてのエンジンの連携において、すでに成果を上げ始めていました。

2021 年には、すでに最初の 2 四半期で奇跡的な成長を達成していました。それは、私たちが新型コロナウイルスのパンデミックの真っ只中にあった時期でした。私は、その成長を開始することを可能にした、「7x7 方式」として知られるようになった手法を考案しました。精神的な観点から見れば、これは、「奇跡」と言われるかもしれません。しかし、ベネズエラのアイデンティティという観点から言えば、現在 14 のエンジンを持つこの新たな経済の成長は、起業家的精神と、社会全体が自らを立て直し、再創造してきた在り方の結果であると私は考えます。

ベネズエラの家族、男性、女性、起業家、企業家、労働者が、自らを再生させました。コーヒーを売る、アレーパを売るといった最も素朴な商いから始まり、人々は少しずつ立ち直っていきました。農村も再生され、生産が始まったのです。これまで常に「不可能だ」と言われてきたにもかかわらずに、です。

ベネズエラで食料を生産すること、すなわち肉、牛乳、鶏肉、トウモロコシ、米など、挙げればきりがありません。これらは、かつて、石油の収入によって購入されていたものです。石油マネーの奔流が、あらゆるものを歪めてしまったのです。

私たちは、石油に依存したレント主義（石油依存主義）のモデルを選んではならなかったのです。私が 1962 年に生まれたとき、石油に依存したレント主義の資本主義モデルは、すでに押し付けられていました。私たちは、米国の石油植民地でした。

私たちが選択したのは、石油レント主義を打破するための基盤を築き、自らのモデルを構築し始めることでした。チャベス司令官は、「祖国計画（プラン・デ・ラ・パトリア）」の中でその指針を残してくれました。そして私たちは、彼らによって封鎖が行われ、石油収入の 99%を奪われた最悪の状況のただ中で、その計画を実践したのです。



写真：ベネズエラ大統領報道局

当時、ベネズエラでは、何も生産されていませんでした。そして、資源がないため、何も輸入できなくなっていました... そこで私たちは、こう決心したのです。前進しよう、この状況の中で成長しよう、と。そして、その通りになりました。ベネズエラは、精神的な観点、経済政策の教義的な観点から成長したのです。私たちは、現実の経済、現実の価値に基づく、まったく正しい政策を立案し、それが新たな生産力へと変化していきました。そして、何が成長したのでしょうか？

2024 年には 9%の成長を達成し、2025 年もほぼ 9%、おそらくそれ以上の成長が見込まれています。何が成長しているのでしょうか？実体経済、つまり、商品やサービスを生産し、高度な段階で富を生み出す経済が成長しており、それは、実に驚くべきことです。繰り返しますが、実体経済、14 のエンジンを構成する各セクターが成長しているのです。そして、私がこれまで述べてきたように、現在の大きな課題は、これら 14 のエンジンが、輸入品をほぼ完全に消滅させるような方針を適用することです。私たちは、すべてをベネズエラ国内で生産する必要があります。

第二に、石油以外の輸出品を確保しなければなりません。新たな外貨収入源です。そして第

三に、市場に供給することです。

しかし、最善の方法は、すべての輸入品を、すべて、抜本的に代替することだと言えるでしょう。輸入をゼロにするまでです。そして、国内市場の 100% を供給し続けるために、すべてを生産することです。

イグナシオ・ラモネ：…食料についてですね。

ニコラス・マドゥーロ：いいえ、すべて、すべてについてです。公共サービス、商品、国が必要とするすべてのもの、衣類、靴、すべて、すべて、すべてを生産することについて話しているのです。

イグナシオ・ラモネ：自動車もですか？

ニコラス・マドゥーロ：はい、自動車ももちろんです。そして第三に、非石油品の輸出という大きな原動力で成長を続けることです。海からの食料の輸出、土地からの有機農産物の輸出で成長を続けることです。

世界最高のコーヒーの輸出を続け、チョコレートやカカオなどを輸出します。すでにその道筋は整い、輸出量は、ますます増加しています。したがって、私たちの経済は、その連携を継続するために大きな課題に直面しています。なぜなら、誰も勝利を宣言することはできないからです。これは、まだ進行中、構築中のものです。そして、14 のエンジンは、大きな活力を示しています。

良いニュースは、2 年連続で、包囲され、脅威にさらされているベネズエラが、ラテンアメリカおよびカリブ海地域全体の経済成長をリードしていることです。これは素晴らしいニュースです。

イグナシオ・ラモネ：大統領、その経済的成功にもかかわらず、再びインフレが上昇しているのではないのでしょうか。このような困難な地政学的状況の中で、インフレを抑制し、通貨を安定させ、年金生活者、労働者、給与所得者の購買力を向上させるために、あなたの政府はどのような戦略をお持ちでしょうか？

ニコラス・マドゥーロ：まず第一に、私たちは、完全に正しい戦略、つまりインデックス化を採用しています。これは世界ではあまり話題になりませんが…これは私たちが試みた手法です…（訳註：賃金や年金、債券などの価格や給付額を、消費者物価指数（CPI）などの物価指標に連動させる（連動させることで価値が目減りするのを防ぐ）仕組み）

インデックス化、そして起業、家族経営、労働者による協同組合の起業が相まって、ベネズエラは、最も強力な国内市場の一つを築き上げ、2024 年 9 月以来、私が「国内貿易の過熱」

と呼ぶ状況を実現しています。

2025 年 12 月現在、販売や消費における商業活動は、34%成長しており、つまり非常に顕著な過熱状態にあります。しかし、国内製品が、すでに国内市場における製品需要全体の90%を賄っています。

また、今年も再び商業活動は、34%成長しています。これは、実際の購買力、すなわちベネズエラの家庭における実質的な消費能力が存在していることを意味します。そして、ベネズエラの家庭自身もそれを実感しています。ただし、これをモデルとして確立・定着させていく必要があります。

もう一つの問題は、私たちの通貨であるボリーバルに対する絶え間ない投機的な攻撃に関するものです。これは、私たちが段階的に克服してきた問題です。なぜなら、これは、極右勢力や、帝国による経済的脅威や経済封鎖のキャンペーンの、いわば中心的な目標にもなっているからです。

もう一つの問題は、我が国の通貨であるボリーバルに対する恒常的な投機的攻撃に関するものです。これは、私たちが段階的に克服してきた課題です。というのも、それが極右勢力の、そして帝国による経済的威嚇や経済封鎖キャンペーンの、いわば中心的な目的の一つになっているからです。

彼らの現在の目的の一つは、石油タンカーへの攻撃やベネズエラ産石油の販売をめぐる一連の問題を通じて、すでに達成し、過去の段階で確立してきた通貨生活や経済の均衡を再びかき乱すことにあります。これは、私たちがどのように対処すべきかを理解している攪乱であり、必ず立ち向かっていくものです。そして、1 年後に再びインタビューを行う頃には、すでにそれを克服していることが分かるでしょう。

イグナシオ・ラモネ：大統領、あまり話題に上らない別の問題についてお伺いしたいと思います。それは、ベネズエラの政治モデルの独創性についてです。2025 年、大統領は、コミュニオン国家を大いに推進されてきましたが、ベネズエラが多くの脅威にさらされている現在の状況において、なぜ管理を中央化するのではなく、国民による自主管理を深化させることを決断されたのでしょうか？コミュニオンは、西側で支配的な自由民主主義モデルに対するボリーバル主義の政治的回答なののでしょうか？大統領が考えている、ベネズエラ独自の新しい民主主義モデルがあるのでしょうか？

写真：ベネズエラ大統領報道局



ニコラス・マドゥーロ：このモデルは、1990 年にチャベス司令官が著した『青本』で誕生

したと思います。当時、彼は、すでに「ボリーバル民主主義」、つまり人民民主主義について語っていました。

間違いなく、西側の民主主義、いわゆる古典的自由主義民主主義は、終末的な疲弊に陥っています。もはや国民を代表しておらず、国民のない民主主義、操作され、操作しやすい民主主義、少数派のための民主主義であり、ますます億万長者や大企業によって機能する民主主義となっています。ソーシャルメディアによる操作、ソーシャルメディアによる感情的な操作にさらされている民主主義なのです。

したがって、コミュニティや市民は、こうした民主主義において、基本的に何の力も持たないのです。もちろん、「西側の民主主義」と呼ばれるものにも、良い経験がないわけではないでしょう。確かにあります。

しかし、当初から、ここには、ボリーバル、シモン・ロドリゲス、エセキエル・サモラに触発された、私たち独自のプロジェクトがありました。チャベス司令官は、『青本』の中で、国民による憲法制定プロセスを通じて民主主義を再構築することを提唱しています。そして、民主主義の公式を再構築し、日常的な民主主義を構築することを提唱しています。

恒常的な民主主義です。国民による民主主義。国民に完全な権力を与える民主主義です。

では、権力とは何でしょうか？ まず第一に、権力とは、政治です。決定することです。公共政策を決定することです。第二に、権力とは、経済的なものです。予算を決定することです。国家の予算を決定することです。そして第三に、文化の力、教育の力です。つまり、私たちが構築しているのは、そういうものなのです。

チャベス司令官は、コミュニティ評議会を設立し、複数のコミュニンの評議会を設立しました。そして、チャベスが私に、いや、私たち全員に、その任務を託したことは、ご存じでしょう。彼は私の肩を抱きながら、「ニコラス、私の命を託すのと同じように、コミュニンあなたに託す」と言いました。

彼がそう言ったとき、私は、彼のそばで、この肩に何世紀にもわたる重みを感じました...しかし幸いなことに、私たちの国民が、その重みを担ってくれ、今ではその重みは感じられません。私の肩は自由ですよ。なぜなら、私たちの国民は、今、直接民主主義を実践しているからです。

今年は4回の国民投票が行われました。ああ、もちろん、AP、EFE、CNN、UPI、AFPといった欧米のメディアにとっては、直接民主主義など存在しないのです。彼らにとって存在するのは、ボリーバル主義のベネズエラに対する絶え間ない攻撃だけです。しかし、ここで私は、議論したい人、どんな人でも、その人がどんな名前で、どんな役職であれ、カラカスのどの地区でも、私ではなく、私たちの国民と議論することを勧めします。新しい民主主義がどのように構築されているかを、ぜひ見てください。

私たちは、誰かの模範になろうとしているわけではありませんが、私たちが構築しているものを誇りに思っています。

こうして、国民は力を得、鍛えられ、成長しているのです。四半期ごとに4回の協議が行わ

れ、さらに今年は、33,000 件の市民プロジェクトが承認され、資金が投入され、建設が進められています。その内容は、公共事業、診療所、CDI と呼ばれる市民医療クリニック、学校、高校、道路、高速道路、インフラ、高齢者向け住宅、若者向け住宅など、枚挙にいとまがありません。決定して、問題を解決するのです。

プロジェクトは、どこから生まれるのでしょうか？ 住民集会からです。そして、プロジェクトは、どのように承認されるのでしょうか？ 市長や大臣、大統領が承認するわけではありません。私がこのコミュニティを承認するわけでも、「こうしなさい」と言うわけでもありません。住民が投票で承認するのです。33,000 件のプロジェクトに 3 億 3000 万ドル以上が、投資されました。その 3 億 3,000 万ドルはどこから来たのでしょうか？ そのボリバル相当額は、14 のエンジン、徴収される税金、海外への販売、石油、出航する石油タンカーなどから得られました。そのすべてが、その後、コミュニティ事業となり、ニーズに対する解決策となります。

ですから、私たちは、恒常的なサイクルと直接参加による、力強い民主主義を構築していると思います。そこでは、国民が権力を持ち、国民だけが決定権を持っています。そのため、私は、チャベスが「それは一人の人間ではなく、国民である」と述べた言葉を自分のものとしています。それはマドゥーロではなく、共和国であり、国民なのです。

マドゥーロがしていることは、国民による権力という権力の代弁者であることです。

**イグナシオ・ラモネ：** 現在、国内にはいくつのコミュニンがありますか？

**ニコラス・マドゥーロ：** 49,000 のコミュニティ評議会があります。そして 4,100 のコミュニンがあります。しかし、私たちは四半期ごとの協議のために 5,336 の準コミュニンで組織されています。これはどういうことか？ つまり、コミュニンがある場所では、コミュニンがコミュニティ評議会を統括し、それが準コミュニンとなるのです。しかし、コミュニンがまだ存在しない地域では、人々が投票して決定できるように、準コミュニンが組織されています。つまり、これは私たち独自のモデルなのです。誰からも模倣したものではありません。

**イグナシオ・ラモネ：** それは都市でも農村でも同じですか？ 首都でも県でも同じですか？

**ニコラス・マドゥーロ：** はい。北から南へ、東から西へ。最も遠く離れた山奥、集落、田舎、今あなたが入りたいと思う地区に足を踏み入れてみてください。そこにはコミュニティ評議会、コミュニン、スポークスパーソン、リーダーシップに会います。

リーダーシップの 70% は女性が占めています。つまり、2025 年は、ベネズエラの民主的権力のビッグバンだったのです。

イグナシオ・ラモネ：大統領、あなたは、ベネズエラ、ボリーバル主義のプロセスに対するメディアと認知の戦争の存在を批判し、非難してきました。あなたの政府は、ここで起きていることの真実を国際世論に伝えるために、どのように戦っているのですか？特に、コミュニケーションがソーシャルメディアによって支配されているこのような時期に。

ニコラス・マドゥーロ：私たちは、すでに国際的な影響力も持ち始めている国家的なシステムを構築しました。私が出版したマニュアル的な本の中で「街頭からネットワークへ、ネットワークからメディアへ、メディアから壁へ」と表現しているものです。そして、ラジオ・ベンバ、他の地域ではボカ・オレハ（ロコミ）とも呼ばれています。

私たちは、このシステムを構築してきました。まだやるべきことはたくさんありますが、ベネズエラ国内、そして世界中の何百万人もの男女が、ベネズエラの真実を擁護していることに、私は、心から喜びを感じています。

戦争は、認知的なものです。なぜなら、戦争は、頭脳によるものであり、頭脳は、感情や概念を扱うからです。そして、認知的な戦争に対抗するには、意識の力、価値観の力、精神的な力を育み、真実をもって戦わなければなりません。私たちの最大の武器は、核ロケットではなく、ベネズエラの真実です。それは、反駁の余地がなく、破壊力があり、私たちの真実を語る機会が与えられると、私たちの国のために光が灯るのです。

私たちは、平和に対する権利、国家主権に対する権利、諸国民の自決権を保障する国際法に対する権利を擁護します。未来と発展に対する権利を擁護します。

これらは、国連およびすべての国際条約によって保障されている基本的権利です。諸国民の発展に対する権利、未来に対する権利、平和に対する権利です。

私たちは、また、アメリカ大陸の解放者たちの輝かしい歴史も擁護します。ですから、この道路、ネットワーク、メディア、壁からなるシステムは、ますます力を増し、より強固なものとなり、2026年、そしてそれ以降の年々に、ベネズエラが、彼らの行う多くの操作や卑劣な攻撃ではなく、その真実によって知られるようになるだろうと思います。

イグナシオ・ラモネ：大統領、まさにその点についてですが、最近の独立した世論調査によると、現在ベネズエラでは、米国の現在の軍事的脅威を拒否するという国民の大半の合意が形成されています。この国民的支持をどのように解釈し、ベネズエラ国民を団結させ続けるためにどのような戦略を実施しているのでしょうか？

ニコラス・マドゥーロ：私は、特に世界の人々は、そう言うべきだと思います。なぜなら、私は、質素な家庭で育った一人の人間としての心からの言葉を述べているからです。私は、大富豪ではありませんし、そうなりたいとも思いません。私は、国民の中から、国民とともに統治する、質素な国民の一人であり続けたいのです。

今、世界は、理解しなければなりません。米国の世論は、理解しなければなりません。南米



の私たち国民は、存在し、生きる権利があるということを。モンロー主義やその他のいかなる主義によっても、新しい植民地主義モデル、新しい覇権主義モデル、新しい介入主義モデル、つまり各国が列強の植民地となり、私たち国民が新たな支配者の奴隷となるようなモデルを押し付けることは許されません。

それは、実現不可能です。21 世紀において、それは、まったく実現不可能です。そして、彼らは世論調査の結果を示すこれらの数字を理解しなければなりません。私は、米国政府、政府全般、すべての機関の上層部では、市民の行動に関する信頼できるデータを持っているはずだと思います。なぜなら、現在ビッグデータと呼ばれるものがあり、人工知能を使って、すべての国の世論を把握することができるからです...

秘密をお話ししてもよろしいでしょうか？

イグナシオ・ラモネ：そのために私たちは、ここにいます。ここは告白室のようなものですから...

ニコラス・マドゥーロ：[笑い] 私たちは、多くの国の先進的な人工知能とビッグデータ、人工知能を利用することができます。理解するのは難しくありません。私たちは、その技術を持っているのです。それは、私たちの公的な事実を測定する手段であるだけでなく、他の国の事実も測定する手段でもあります... したがって、世界の大国もそれを所有しており、ベネズエラ社会が自国の石油の略奪と強奪に対して示した免疫反応は、95%が拒否であるということを知っておく必要があります。

現在の米国政府は、ベネズエラとラテンアメリカについて知らなければなりません。私は、ベネズエラについて話しますが、ラテンアメリカのデータについてはお話ししません、それはまた別の機会に、1 月に別の会話で話すことができるでしょう... 現在の米国政府がベネズエラに軍事的な威嚇を行っていることを、国民の 95%が拒否しているということを、彼らは認識しなければなりません。これは、ベネズエラ社会全体の免疫反応なのです。彼らが右翼のトップに据えた人物は、ベネズエラでは非常に孤立し、嫌悪されていることを、彼らは認識しなければなりません。

今日、米国は、ベネズエラに同盟となる政治勢力をまったく持っていないと言えます。なぜなら、マリア・マチャードという女性（ベネズエラでは「サヨナ」と呼ばれています）は、ベネズエラ社会の 85%から拒否され、完全に嫌悪されているからです。彼女も、彼女が代表する勢力も、この国を統治する能力は、決して持ち合わせていません。

彼らもそれを承知しています。アメリカも、そして世界も、そのことを知っています。そして、彼らは、私たち、この国の愛国的な勢力、マドゥーロ大統領、そして PSUV（ベネズエラ社会主義統一党）や大祖国連合をはるかに超えた勢力が、現在、国家の主権と平和を守るための戦いにおいて、70%以上の支持を得ていることを認識しなければなりません。70%以上です。

このような数字は、これまで私たちが得たことのないものです。もちろん、ここには、チャベス司令官がすべての段階で得てきた支持があり、また、選挙の過程で実証してきたように、私たちもさまざまな段階で支持を獲得してきました。

したがって、これらの数字は、国民の世論の状態と、ベネズエラがこれまでにないレベルの合意、国民的結束を達成したことを示す、非常に説得力のあるものです。これまでにないことです！私は、これを、国民、軍、警察の完全な結束と呼んでいます、あらゆる分野が結集した、かつてないほど広範な国民的結束とも呼ぶことができるでしょう。

これは、28 週間にわたって続いている、違法で、不釣り合いで、威嚇的で、好戦的な攻撃に対して、ベネズエラ社会が示した自然な免疫反応なのです。

**イグナシオ・ラモネ：**それでは、米国の軍事的脅威についてお聞きしましょう。ベネズエラは、5 ヶ月以上にわたり、ベネズエラ沿岸沖でこの海軍による軍事的脅威に直面しています。多くの人々が疑問に思っているのは、米国の意図をどのように解釈するか、ということです。米国は、何を求めているのでしょうか？先ほどお話しした国民的結束、ボリーバル革命の結束、ボリーバル国軍（Fuerza Armada Nacional Bolivariana）の結束を、圧力で打ち破ろうとしているのでしょうか？それとも、いわゆる「政権交代」を進めるために、実際の攻撃を仕掛けようとしているのでしょうか？あなたは、この脅威をどのように解釈しますか？

**ニコラス・マドゥーロ：**米国社会、そしてここベネズエラでも、この問題について活発な議論が繰り広げられていると思います。現在の米国政府は、こうした脅威によって何を狙っているのでしょうか？それは、異常であり、違法であり、また、非常識でもあります。その目標は、何でしょうか？何を狙っているのでしょうか？脅威、威嚇、武力によって支配しようとしていることは明らかです。こうした行為は、すべて、1945 年の国連創設後に確立された国際平和の権利に違反しています。ちょうど最近、国連創設から 80 年が経過しましたが。

そして、国際法、すなわち戦後における国際法の根幹である国連憲章は、ある国が別の国に対して武力行使を威嚇することを明確に禁止し、非難しています。それを禁止し、非難し、国際犯罪と定めているのです。そして、ある国家が別の国家に対して武力を行使することを非難し、禁止しています。その他の要素の中でも...

これは、法的に、司法的に非常に重要な意味を持っています。彼らは、国際法を露骨に違反しており、さらに、倫理的、道徳的にも大きな問題があります。なぜなら、米国国民は、現在の政府を、再びラテンアメリカで軍事介入を開始するために選んだのか、自問しなければならぬからです。

米国の世論、マスコミ関係者、そして何よりも一般市民、米国の若者、キリスト教徒、私のキリスト教徒の兄弟たち、キリスト教会の皆さん（私も教会の一員です）に、私はお尋ねします。あなたの政府が行っていることは、倫理的であり、道徳的であり、キリスト教徒とし

てふさわしいことなのでしょうか。

ラテンアメリカおよびカリブ海地域で再び軍事介入を開始するため、ラテンアメリカおよびカリブ海地域で武力による政権交代を追求するため、ラテンアメリカおよびカリブ海地域でクーデターを起こし、クーデターを促進するために、現在の政府を選んだのかどうか。大戦争、つまり「終わりなき戦争」の準備を始めるために。私は演説や歌でも「戦争反対、狂気の戦争反対」と述べてきました。そうでしょうか？「狂気の戦争反対。平和賛成」。私はそう述べてきましたが、それは、後に歌にもなりました。私は、ベトナム戦争の再現にはノーと言いました。それとも、アメリカではベトナムで起こったことを誇りに思っているのでしょうか？そうではないと思います。

世論調査を行えば、アメリカ国民の 80%は、新たなベトナム戦争を望んでいません。新たなアフガニスタン戦争も望んでいません。それとも、アフガニスタンに誇りに思っているのでしょうか？ああ、彼らは、ベトナム戦争、アフガニスタン戦争、イラク戦争、リビア戦争を、ここカリブ海、南アメリカに持ち込むつもりです。それは反省点です。それは反省点です。つまり、現在の米国政府の政策は、米国社会が望むもの、そして人類が望むものとは相反しているのです。

なぜなら、人類が望むものは、対話、外交、平和、国家間の尊重、民族間の尊重だからです。私たちは、私たちの法律に従っています。私は、大統領として、私の法律に従っています。私たちは、私たちの法律、国際法、憲法に従っています。私たちは、私たちが持つ最も神聖なもの、すなわち私たちの土地、私たちの天然資源を守っています。なぜなら、その目標は、何でしょうか？現在の米国政府の目標は何でしょうか？彼らは、すでにそれを述べています。ええ？ベネズエラの石油をすべて手に入れることです。彼らは、すでにそれを述べています。金も、レアアースも、ベネズエラの富も。

スペイン語には「そんなことは許さない！そんなことは許さない！」という表現があります。私たちは、平和を望んでいます。国際法の尊重を望んでいます。そして、これから数週間、数ヶ月を待ち、米国社会、世界社会が、この脅威を払拭し、終わらせるための対応策を生み出してくれることを願っています。

**イグナシオ・ラモネ：**最も信頼性の高いアメリカのメディアは、ベネズエラに対する圧力を強めるためにアメリカ政府が提出した主張の一部、例えば、ベネズエラは「コカインの生産国」であるといった主張は、事実ではないとすでに報じています。

これは、ベネズエラ政府が言っているのではなく、アメリカのメディア自身が確認していることです。それは、意味をなさず、この問題に詳しい人なら誰でも知っている現実とは一致しません。

また、石油の問題についても、1976 年、つまりチャベス政権のずっと前に実施された「石油の国有化」に反対であるとする米国大統領の声明も、まったく意味を成していません。したがって、この軍事的圧力に対する具体的な論拠が何かは、はっきりとは見当たりません。

ニコラス・マドゥーロ： ええ、麻薬の問題については、私がお話しできます。ベネズエラは、麻薬取引対策において、完璧と言えるモデルを確立しています。本日、コロンビアの麻薬取引に関与した外国の小型飛行機、40 機目を撃墜することに成功しました。誰が？ベネズエラのスホーイ戦闘機です。パイロットの皆様にご心から敬意を表します。

本日、ベネズエラのラジャーン地方、グアリコ県で、トレン・デル・ジャーノの最後の作戦責任者と、その手下の犯罪者 4 人が、戦闘で制圧されました。彼は「トレン・デル・ジャーノ」の最後の生き残りでした。私たちは、麻薬取引や犯罪組織と戦うための完全なモデルを有しています。この地域を流通するコカインは、すべてコロンビアで生産されています。すべてです。すべてのコカインです。私たちは、コロンビアの麻薬取引の犠牲者です。

今日だけではありません。何十年も前からそうです。そして、私たちのモデルによって、コロンビアの麻薬取引が過去にベネズエラに与えた影響を抑制することに成功しました。

ですから、国境では、非常に厳しい戦いを繰り広げています。コロンビアとの国境には、警察や軍による保護がまったく存在しないため、警察、軍、作戦部隊を配備するために何十億もの資源を投じています。コロンビアとの 2,200 キロに及ぶ国境に、3 つの平和地帯を設置しました。しかし、コロンビア側からの協力はまったくありません。そのため、すべての作業は私たちが行わなければなりません。

そして、撃墜された 40 機の航空機は、すべてコロンビアから飛来したものです... 法律、すなわち禁止法に基づき、事前に警告を行い、必要な措置をすべて講じた後、スホーイのロケット弾が炸裂しました。

今日までに、外国およびコロンビアの麻薬密輸用航空機は 431 機撃墜されました... 法律に基づいてです。ですから、私たちは、模範的で非常に効果的なモデルを持っているのです。その他は、ご存知のように、米国でさえまったく信じていない作り話の一部です。そして、単純に、私を告発することはできない、ベネズエラが大量破壊兵器を保有していると告発することはできない、核ミサイルを保有していると告発することはできない、核兵器を準備していると告発することはできない、化学兵器を保有していると告発することはできない、というわけで、米国は、大量破壊兵器の告発が終わりなき戦争へと導いたのと同じくらい虚偽であることを知っている告発をでっち上げたのです。

米国は、それが虚偽であることを知っています。ですから、私は、こうしたことはすべて脇に置いて、データに基づいて真剣な対話を始めるべきだと考えています。米国政府もそれを知っています。なぜなら、私たちは、米国の多くのスポークスパーソンに、麻薬取引対策に関する協定について真剣な対話を行う用意がある、と伝えてきたからです。ベネズエラの石油をお求めであれば、ベネズエラはシェブロン社のような米国企業による投資を、いつでも、どこでも、どのような形でも受け入れる用意があります。

米国は、包括的な経済開発協定を望むのであれば、ここベネズエラでも同様であることを認識すべきです。私は何度も繰り返し述べてきましたが、移民問題での出来事を考えてみてく

ださい。

お伝えしておきますが、2024 年 1 月 31 日にリック・グレネル米特使と合意に達し、それは完全に機能していました。しかし 3 週間前、米国政府当局は、ベネズエラへの移民の送還を中止し、それ以来、移民は送られてきていません...

つまり、彼らは、移民問題について語っていますが、移民に関する合意を中断したのは彼らなのです。

いつか理性と外交が働けば、話し合いは十分可能です。私たちにはその成熟度と度量があります。さらに、ラモネさん、私たちは、約束を守る人々です。私たちは、約束を守る、誠実な人々です。いつか、現在の政府とも、その後任の政府とも、そのことについて話し合うことができるでしょう。

**イグナシオ・ラモネ**：大統領、非常に重要な質問ですが、米国の最近の声明によると、ベネズエラで、麻薬製造工場に対する「地上攻撃」があったと言われています。あなたの政府は、これまでこの情報を確認も否定もしていません。この件について、何かお答えいただけますか？

**ニコラス・マドゥーロ**：そうですね、それはおそらく数日後に、このポッドキャストの第 2 版で話し合うことができる話題かもしれません。おそらく数日後には話し合うことができるでしょう。私が言えることは、国民、軍、警察の力を組み合わせた私たちの国防システムは、領土の完全性、国の平和、そして私たちの領土のすべてを利用し、享受することを保障してきたし、今も保障しているということです。そして、国民は安全で平和に暮らしています。

**イグナシオ・ラモネ**：あなたはドナルド・トランプ大統領と直接会談されましたね？そして最近、2 回目の会談があったと報じられています。トランプ大統領との 2 回目の会談があったことを確認していただけますか？

**ニコラス・マドゥーロ**：2 度目の会談に関する憶測を見ました。ラモネさん、私たちは 1 度だけ会談を行いました。彼は、11 月 21 日（金）にホワイトハウスから私に電話をかけ、私はミラフローレス宮殿にいました。私たちは、10 分間会談しました。私が述べた通り、それは敬意に満ちた、非常に礼儀正しく、友好的な会談でした。

**イグナシオ・ラモネ**：トランプ大統領は、どのようなことを言いましたか？

**ニコラス・マドゥーロ**：まず最初に「マドゥーロ大統領」と言いました。私は「ドナルド・トランプ大統領」と答えました。その会話は、とても好ましいものだったと思います。しか

し、その後の展開は、あまり好ましいものとは言えません。

待ちましょう。私は、すべてを神に委ねます。全能の神様に。天と地を創造された方に。とりわけ、今日のような12月31日は、素晴らしい、荘厳な空、夕暮れ時のその色、この平和で美しいカラカスです。私は、すべてを神様に委ねます。神様はご自分のなさることをご存じです。私たちは、倫理、道徳、愛国心、祖国への愛をもって行動します。

2026年、私が「素晴らしい挑戦の年」と呼んでいるこの年までに、私たちは混乱や問題を乗り越え、ベネズエラという平和な国をさらに強固なものにしていくことができるでしょう。

そして、アメリカ合衆国の人々に、私は、これまでずっと、ここベネズエラには兄弟のような国民がいると伝えてきました。アメリカ国民の皆様、さらに申し上げますと、ここには友好的な政府があります。私は、アメリカをよく知っています。ニューヨーク、ボストン、ボルチモア、フィラデルフィア、ニュージャージー、クイーンズ、マンハッタン、ワシントンなどをよく訪れました。

私は、アメリカ大統領にもそう伝えました。私は、とても美しいコンスティチューション通りをよく知っています。ペンシルベニア通りには、ボリーバルを称える像があります。リンカーン記念館も、とても美しいです。私は、その周辺を何度も車で走りました。そして、アメリカ国民の皆様は、ここに、友好的で、平和的な国民がおり、また、友好的である政府もあることを、ぜひ知っておいていただきたいと思います。そして、私たちのスローガンは、非常に明確です。それは、「戦争反対、平和賛成」です。



写真：ベネズエラ大統領報道局

イグナシオ・ラモネ：最後の質問です、大統領、まさにこのことについてです。ここ数週

間、紛れもない圧力にさらされている状況の中で、大統領は、公の場で非常に活発に活動し、大衆に支えられている姿を見せています。つまり、大統領は、この脅威から身を守るために、バンカーに閉じこもっているわけではないのです。大統領は、人々に囲まれており、その発言のいくつかは世界中に広まっています。まさにこの「戦争反対、平和賛成」というスローガンは、いくつかの歌にも取り入れられています。ソーシャルメディアは、大統領に対して大きな共感を示していると思います。最後に、大統領自身の個人的な考えをお聞きしたいと思います。世界一の軍事大国による攻撃の脅威に直面し、大統領は、個人的、心理的、精神的に、この状況をどのように受け止めているのでしょうか？

**ニコラス・マドゥーロ：**私には、絶対的な防空壕があります。それは、全能の神です。私は、ベネズエラを主イエス・キリストに委ねました。主は、王の中の王です。この地、私たちの祖国の王です。私は毎日、彼に身を委ねています。私たちの祖国を彼に委ねています。今だけでなく、常に、いつもです。さらに、国民は私たちの最大の盾であり、最大の鼓舞してくれるものであり、最大のエネルギーです。なぜなら、その国民のおかげで、私たちは今あるものすべてを受け取ってきたからです。

そして、その国民のために、私たちは今あるものすべてを与えています。私は、単に私ではありません。私は、500年にわたる戦いの歴史的プロジェクトを代表しているのです。私は、インディオのグアイカイプルであり、サモラであり、チャベスである、と申し上げることができます。なぜなら、私は、国民そのものであるからです。

国民を包み込み、国民を受け入れ、国民に権力を委ねることは、私たちの歴史的プロジェクトの存在意義であり、その本質です。その道を進む限り、私たちは、常に、いかなる状況においても、必ず成功するでしょう。私たちの絶対的な決意は、祖国を偉大に導くという誓いに忠実であることです。しかし、ベネズエラを偉大にするために、誰かを傷つける必要はありません。そうでしょうか？再び偉大になりたいと願うアメリカ合衆国のように。アメリカは、努力と労働、そして平和主義の精神によって偉大になってください。

脅威や戦争によってではなく。もう十分です、これ以上戦争は不要です。これらは、信念です。私たちを動かすのは、信念、誓約、そして神聖で、目に見えない神聖な力です。神は私たちと共におられるからです。そして、私たちの民が言うように、「神が私たちと共におられるなら、誰が私たちに敵対できるのでしょうか？

ですから、いかなる状況においても、勝利は常に私たちのものとなるでしょう。だからこそ、私たちは、これまで守られてきた中で最も公正な大義を守っているという、安らぎと平静、そして自信を持っているのです。そして、平和の勝利は私たちのもののなのです。

**イグナシオ・ラモネ：**ありがとうございます、大統領。そして、明けましておめでとうございます。

（このインタビューはテレビ用にビデオ録画されました。総時間は 1 時間 4 分です。この

文章版は、より簡略化されています。私自身が、あまり重要ではない部分を削除し、より本質的で国際情勢に関連性の高い部分を残して編集しました。イグナシオ・ラモネ)  
(新藤通弘訳)